

roremu v0.1.0

目次

1 概要	1
2 使い方	1
2.1 例	1
3 API Reference	2
3.1 関数	2
3.1.1 roremu	2
3.1.1.1 Parameters	2
3.1.1.1.1 words	2
3.1.1.1.2 offset	2
3.1.1.1.3 custom-text	2

1 概要

このパッケージは日本語のダミーテキストを生成するためのライブラリです。現在は夏目漱石『[吾輩は猫である](#)』（[青空文庫版](#)より一部抜粋、ルビ抜き）を元にして、特定の文字数の文章を生成できます。

2 使い方

```
import "@preview/roremu:0.1.0": roremu
#roremu(100)
```

2.1 例

```
#roremu(8)
```

吾輩は猫である。

```
#roremu(8, offset: 8)
```

名前はまだ無い。

```
#roremu(38, offset: 16)
```

どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣

```
#roremu(100, custom-text: "私はその人を常に先生と呼んでいた。")
```

私はその人を常に先生と呼んでいた。私はその人を常に先生と呼んでいた。私はその人を常に先生と呼んでいた。私はその人を常に先生と呼んでいた。私はその人を常に先生と呼んでいた。

```
#roremu(125)
```

```
#roremu(107, offset: 125)
```

吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。

この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐しいとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。

3 API Reference

3.1 関数

- [roremu\(\)](#)

3.1.1 roremu

日本語ダミーテキスト生成

3.1.1.1 Parameters

```
roremu(  
    words: int,  
    offset: int,  
    custom-text: str | none  
) -> str
```

3.1.1.1.1 words int

生成するテキストの長さ（文字数）

3.1.1.1.2 offset int

テキストの開始位置（文字数）

Default: 0

3.1.1.1.3 custom-text str or none

デフォルト『吾輩は猫である』の代わりに使用する文字列

Default: none